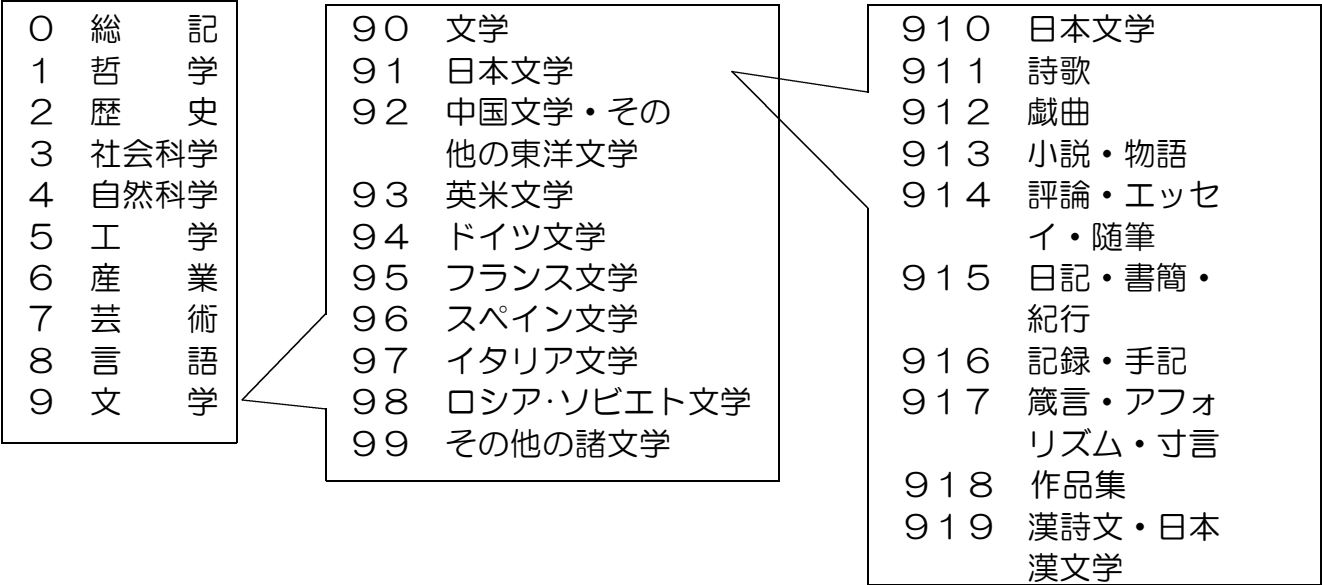


**資料⑩**

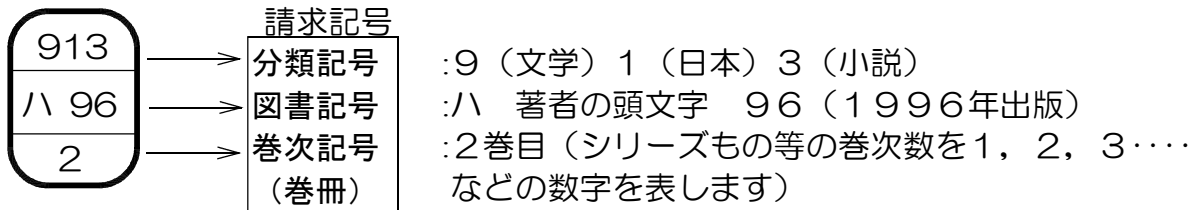
**日本十進分類法について**

図書館の本や資料は、決まった方法で整理してあります。これは、利用する人が必要な資料をすぐに見付けることができるようにするためです。日本のほとんどの図書館で使われている分類法が日本十進分類法（NDC）です。



**913** この番号を分類記号といい、「キュウイチサン」と読みます。

(例)「天の瞳 幼年編Ⅱ」 灰谷健次郎 作



- ※ 図書記号は、①著者の名字の頭文字、②個人の伝記は、伝記に書かれている人の名字の頭文字などからとられる著者記号と出版年を組み合わせることが多いです。
- ※ 絵本はE (Easy book), 紙芝居はP (Picture book) という別置記号でまとめています。
- ※ 小学校の図書館の本には、普通二桁の分類記号が、中学校の図書館では、三桁の分類記号が付いています。(蔵書の量や構成によって異なります。)
- ※ 公共図書館は、児童用の本か、一般用の本かによっても表記の仕方が違います。また、横向きに「913 ハ 2」と表し、出版年を入れていない場合もあります。このように、蔵書の数や図書館の種類によっても表現が変わりますし、資料の並び方も様々です。ので、あらかじめ図書館の人に聞いて調べておくことが大切です。

**注意!** 図書館の本の並びには、上記のような決まりがあります。これが守られないと、本を探すことができなくなります。読んだ本を本棚に返すときには、請求記号をよく見て正しい場所に返すようにしましょう。